

令和元年度 八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅰ＋数学Ⅱ	学 年	1	類 型	高進
単位数	3＋1	教科書	高等学校 数学Ⅰ（数研出版）、高等学校 数学Ⅱ（数研出版）				
副教材	アドバンス 改訂版 数学Ⅰ＋A（啓林館）、アドバンス 改訂版 数学Ⅱ＋B（啓林館）						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1章 数と式		
	式の計算	式を多面的に見たり処理したりすることができる。	☐ ☐ ☐
	実数	絶対値や無理数の計算ができる。	☐ ☐ ☐
	1次不等式	1次不等式の解を求められる。	☐ ☐ ☐
	第3章 2次関数		
	2次関数とグラフ	平方完成することで頂点を求め、グラフがかけられる。	☐ ☐ ☐
	2次関数の値の変化	グラフを活用して、最大値、最小値を求められる。	☐ ☐ ☐
2 学 期	2次方程式と2次不等式	数量の関係を2次不等式で表し、解を求められる。	☐ ☐ ☐
	第2章 集合と命題	集合と命題の基本的な概念を理解する。	☐ ☐ ☐
	第4章 図形と計量		
	三角比	鋭角の三角比の意味を理解し、値が求められる。	☐ ☐ ☐
	三角形への応用	正弦定理、余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求められる。	☐ ☐ ☐
	第5章 データの分析	データを整理・分析し傾向を把握することができる。	☐ ☐ ☐
	第1章 式と証明		
3 学 期	式と計算	整式の除法、分数式の四則演算ができる。	☐ ☐ ☐
	等式・不等式の証明	等式や不等式が成り立つことを基本的な性質などを用いて証明することができる。	☐ ☐ ☐
	第2章 複素数と方程式		
	複素数と2次方程式の解	数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則演算ができる。	☐ ☐ ☐
	高次方程式	高次方程式の解を因数定理などを用いて求められる。	☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。
評価方法	考查評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点および5段階で評価する。平常評価は課題の提出状況、小テスト、授業への取り組み等で行う。